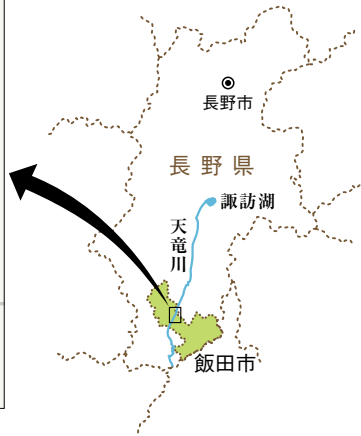


荒れた竹林 何とかするぞ

迫り来る竹やぶ。

あまりの勢いに、ひとりじゃあきらめたくもなるが、
地域の仲間となら、楽しく活かせる道もある。

話題の「森林・山村多面的機能発揮対策交付金」もうまく使って、
みんなで元気に押し返したい。



船頭たちが竹林伐採 竹いかだは迫力満点 長野県飯田市

文：曾根原宗夫（天竜舟下り株式会社）
写真：尾崎たまき／*は筆者

天竜の荒波に負けない竹いかだ完成！

南アルプスと中央アルプスの間を流れる天竜川。昔から「暴れ天竜」と呼ばれるその川で、天竜舟下り(株)の船頭をしている曾根原と申します。

飯田市弁天港から時又港までの舟下り航路のなかに「鶯流峡」という溪谷が3kmほど続きます。荒瀬あり、深淵ありの風光明媚な溪谷でしたが、ゴミの不法投棄スポットとなってしまうました。私たち船頭が川側から清掃活動をしても、溪谷山側から投棄されるゴミの数々。まさにイタチごっこです。投棄されるゴミばかりに目がいついていたある日、よく見ると以前に比べ溪谷内に光が射し込まず、暗くなっていることに気がつきました。竹の侵食でした。

「この放置竹林を伐採して光の射し込む明るい溪谷にしていけば不法投棄も減っていくに違いない！」さっそく地主さんに当たり、2013年正月から船頭有志による竹林伐採を開始しました。仕事の中の空いた時間での作業、なかなか思ったようには進みませんでした。徐々に人数も増え、谷にだいたいが差し込み始めました。いまは年間1000〜1500本の竹を切っています。

さあ、大量に伐採したこの竹をどうしたものか。





船頭歴19年の筆者。竹いかだは長さ4m。この日は3連にして前方に2人、後方に1人の船頭がついた。普通の舟より技量が必要